

野菜の需給・価格動向レポート(平成24年12月17日版)

1 主要野菜の生産出荷状況

種類	11月の価格動向			12月の価格動向		生育及び価格の12月の見通し		
	(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額		(参考) 保証基準額の 算定の基となる 平均価格	指定野菜の関東・近畿ブロック別平均販売価額			
		中旬	下旬		上旬			
葉 茎 菜	キャベツ	66.3	46	50	66.3	57	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：13,544t (105) 主産地：愛知 (46)、千葉 (33)、神奈川 (10)、茨城 (8) 	<ul style="list-style-type: none"> 愛知産は、引き続き順調な生育で玉の肥大も進み、潤沢な出荷の見込み。千葉産及び神奈川産は、最近の寒さの影響で生育が停滞し少なめの出荷となり、年内は平年より少なめの見込み。 千葉産及び神奈川産の出荷が少なめと見込まれることから、平年を下回っている価格は、平年並みに近づく見込み。
		69.92	46	48	69.92	54	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,200t (115) 主産地：愛知 (56)、茨城 (8) 	
	ねぎ	218.22	271	243	218.22	240	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込数量：6,456t (97) 主産地：千葉 (23)、茨城 (18)、埼玉 (17)、群馬 (11)、栃木 (6)、輸入 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、細物中心で平年より少なめの出荷となっていたが、今後は年末の需要期を迎え、出荷量が増加する見込み。茨城産は、順調な生育となり、太物比率も高まって、平年並みの出荷の見込み。 順調な出荷が見込まれるもの、年末に向けて需要が堅調と見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		314.62	329	326	314.62	321	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込数量：790t (85) 主産地：鳥取 (30)、群馬 (21)、埼玉 (14)、静岡 (7)、福井 (7)、大分 (6) 	
	はくさい	36.65	38	35	36.65	37	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：14,086t (100) 主産地：茨城 (95) 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、順調な出荷となっていたものの、最近の寒さの影響で生育が停滞し、少なめの出荷の見込み。 少なめの出荷が見込まれることから、価格は、平年をやや上回って推移する見込み。
		53.29	58	54	53.29	56	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：5,100t (100) 主産地：茨城 (40)、愛知 (17)、和歌山 (13)、熊本 (12)、岡山 (8) 	
	ほうれんそう	350.1	437	501	350.1	584	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,633t (105) 主産地：群馬 (42)、千葉 (20)、埼玉 (15)、茨城 (13) 	<ul style="list-style-type: none"> 群馬産は、最近の寒さの影響で、平年よりやや少なめの出荷になっていたものの、年末に向けて増加する見込み。千葉産も、最近の寒さの影響で少なめの出荷となっていたものの、年末に向けて徐々に出荷量が増加する見込み。 出荷量の増加が見込まれるもの、年末に向けて需要が堅調と見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		416.76	530	559	416.76	576	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：650t (105) 主産地：徳島 (51)、福岡 (20)、群馬 (14)、岐阜 (7) 	
	レタス	136.79	147	207	233.85	249	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：7,760t (100) 主産地：静岡 (31)、兵庫 (19)、香川 (14)、茨城 (10)、千葉 (5)、福岡 (4) 	<ul style="list-style-type: none"> 静岡産は、出荷のピークを迎えているものの寒さの影響で小玉以降となり、平年より少なめの見込み。兵庫産及び香川産は、年末に向けて出荷量の増加が見込まれるもの、平年には届かない見込み。茨城産は、出荷の終盤を迎え減少傾向となっていることに加え、寒さの影響で小玉傾向となり、少なめの出荷の見込み。 少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		147.25	168	211	226.75	252	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,350t (104) 主産地：兵庫 (46)、徳島 (27)、香川 (11)、熊本 (7) 	
	たまねぎ	76.15	65	64	76.15	65	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：10,913t (110) 主産地：北海道 (88)、輸入 (3) 	<ul style="list-style-type: none"> 北海道産は、作柄良好で前年を上回る出荷となっている。今後も平年並みの出荷の見込み。 順調な出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を下回って推移する見込み。
		76.15	66	67	76.15	70	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,200t (104) 主産地：北海道 (61)、兵庫 (35) 	
果 菜	きゅうり	262.75	316	323	370.98	484	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,360t (100) 主産地：宮崎 (38)、千葉 (20)、高知 (16)、埼玉 (15) 	<ul style="list-style-type: none"> 宮崎産は、年末に向けて増加が見込まれるもの、平年には届かない見込み。千葉産及び高知産は、曇天の影響で少なめの出荷となっているものの、天候の回復により、年末に向けて出荷量が増加する見込み。埼玉産は、ピークを過ぎ減少傾向であるものの、平年並みの出荷の見込み。 宮崎産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年を上回って推移する見込み。
		284.72	313	303	350.33	466	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,050t (109) 主産地：宮崎 (45)、高知 (22)、徳島 (15)、愛媛 (6) 	
	トマト	315.83	624	494	332.69	482	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：4,445t (103) 主産地：熊本 (40)、愛知 (23)、千葉 (9)、静岡 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> 熊本産は、平年並みの出荷となっているものの、ピークを過ぎ年末にかけて減少する見込み。愛知産は、順調な生育となっており、平年並みの出荷の見込み。 熊本産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		337.88	611	487	311.06	453	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：940t (115) 主産地：熊本 (55)、愛知 (19)、徳島 (8)、福岡 (8) 	
	なす	301	336	383	389.03	433	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,720t (100) 主産地：高知 (58)、福岡 (20)、佐賀 (6) 	<ul style="list-style-type: none"> 高知産は、最近の寒さの影響で少なめの出荷となり、年内は少なめの出荷の見込み。福岡産も、最近の寒さの影響により、平年より少なめの出荷となっており、今後も少なめの出荷の見込み。 少なめの出荷が見込まれることから、価格は、引き続き平年を上回って推移する見込み。
		263.21	335	399	397.74	447	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：290t (96) 主産地：熊本 (36)、高知 (32)、福岡 (13)、岡山 (11) 	
	ピーマン	344.39	222	225	344.39	312	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：1,410t (100) 主産地：茨城 (44)、宮崎 (26)、高知 (19)、鹿児島 (12) 	<ul style="list-style-type: none"> 茨城産は、寒さの影響で生育が停滞したことと、出荷の終盤を迎えており、少なめの出荷の見込み。宮崎産及び高知産は、曇天の影響で少なめの出荷となり、今後も少なめの出荷の見込み。 少なめの出荷が見込まれることから、平年を下回っていた価格は反転し、平年を上回って推移する見込み。
		353.61	231	228	353.61	305	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：290t (116) 主産地：宮崎 (56)、高知 (25)、鹿児島 (16) 	
根 菜	だいこん	64.33	55	56	64.33	64	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：12,410t (100) 主産地：神奈川 (48)、千葉 (45) 	<ul style="list-style-type: none"> 神奈川産は、生育良好で肥大も進み順調な出荷となり、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、寒さの影響で生育が停滞し、平年よりやや少なめの出荷の見込み。 神奈川産の出荷が順調と見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
		76.48	65	64	76.48	68	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：3,600t (99) 主産地：和歌山 (26)、鹿児島 (26)、長崎 (23)、徳島 (18) 	
	にんじん	100.82	100	103	100.82	105	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：8,690t (100) 主産地：千葉 (83)、埼玉 (8)、茨城 (2)、輸入 (1) 	<ul style="list-style-type: none"> 千葉産は、播種時期の遅れと最近の寒さの影響により、生育の遅れが生じ、少なめの出荷となつており、今後も少なめの出荷となる見込み。埼玉産は、平年並みの出荷の見込み。 千葉産の出荷が少なめと見込まれることから、価格は、平年をやや上回って推移する見込み。
		104.49	91	80	104.49	98	<ul style="list-style-type: none"> 入荷見込量：2,100t (103) 主産地：長崎 (60)、千葉 (18)、鳥取 (16) 	

種類	11月の価格動向			12月の価格動向			生育及び価格の12月の見通し
	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	(参考)保証基準額の算定の基となる平均価格		指定野菜の関東・近畿ブロック旬別平均販売価額	
	中旬	下旬		上旬			
いも さといも ばれいしょ	200.88	189	195	200.88	210	・入荷見込量：2,090t (100) ・主産地：埼玉 (53)、千葉 (21)、輸入 (6)、栃木 (4)	・埼玉産は、夏場の少雨の影響で小玉傾向ではあるものの、平年並みの出荷の見込み。千葉産は、平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれるもの、年末に向けて需要が堅調と見込まれることから、価格は、平年をやや上回って推移する見込み。
	207.2	243	209	207.2	199	・入荷見込量：288t (-) ・主産地：宮崎 (34)、愛媛 (30)、福井 (13)、熊本 (5)、輸入 (5)、大阪 (2)	
	88.17	80	82	88.17	86	・入荷見込量：8,943t (105) ・主産地：北海道 (83)	・北海道産は、引き続き安定した出荷となっている。今後も平年並みの出荷の見込み。 ・順調な出荷が見込まれることから、価格は、平年並みに推移する見込み。
	88.17	80	83	88.17	84	・入荷見込量：3,700t (94) ・主産地：北海道 (75)、長崎 (25)	

1) 平均価格は、過去6年間の中央卸売市場の各指定野菜の卸売価格を物価指数で修正した価格の平均(消費税は除く。)。

2) 旬別平均販売価額の赤字は平均価格を50%以上回るもの、背景色は保証基準額(平均価格の90%)を下回るもの(消費税は除く。)。

3) 単位は円/kg、上段は関東、下段は近畿ブロック。

4) 入荷見込量は、関東農政局及び近畿農政局「野菜の入荷量と価格の見通し」による。()内は前年対比。

5) 主産地は、東京都及び大阪市中央卸売市場への出荷の多い県名。()内は入荷シェアであり、関東は本年の見込み、近畿は前年の実績。

6) コメントは、都道府県、出荷団体、都道府県野菜価格安定法人、卸売会社等からの聴取りをもとに機構が作成したもの。

2 野菜の需要動向

家計調査によると、10月の1人当たりの生鮮野菜の購入数量は、5.174gで前年比103%、購入金額は、1,745円で同93%となり、購入数量は前年をやや上回り、購入金額はかなり下回った。

また、小売物価統計によると、11月のキャベツの小売価格は、100円で過去5か年平均比62%、レタスは、382円で同103%となり、キャベツは過去5か年平均を大幅に下回り、レタスはやや上回った。

生鮮野菜の購入数量及び金額（1人当たりの購入数量と金額）

年	過去5か年平均		平成23年		平成24年			
	購入数量(g)	金額(円)	購入数量(g)	金額(円)	購入数量(g)	前年比	金額(円)	前年比
1月	4,263	1,528	4,310	1,573	4,189	97	1,634	104
2月	4,403	1,552	4,267	1,629	4,499	105	1,735	107
3月	4,815	1,721	4,867	1,788	4,584	94	1,851	104
4月	4,779	1,812	4,796	1,789	4,620	96	1,904	106
5月	5,109	1,894	5,171	1,820	4,945	96	1,948	107
6月	5,043	1,872	4,904	1,857	5,103	104	1,875	101
7月	4,441	1,696	4,362	1,759	4,386	101	1,675	95
8月	4,348	1,719	4,392	1,717	4,245	97	1,618	94
9月	4,831	1,804	4,598	1,803	4,916	107	1,703	94
10月	5,262	1,862	5,037	1,884	5,174	103	1,745	93
11月	5,016	1,636	5,091	1,613	0	0	0	0
12月	5,145	1,834	4,998	1,792	0	0	0	0

主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移

	主要野菜の月別小売価格(東京都区部)の推移				
	キャベツ	レタス	過去5か年平均	平成24年	5か年比(%)
1月	166	230	138	547	126
2月	177	247	140	508	136
3月	188	238	126	461	692
4月	238	262	110	462	513
5月	172	196	114	380	409
6月	144	127	88	350	305
7月	160	119	75	324	292
8月	156	111	71	463	296
9月	155	101	65	562	307
10月	161	101	63	505	325
11月	162	100	62	371	382
12月	153	0	453	0	103

1) 過去5か年は平成19～23年の平均。

2) 平成24年11月の値は、11月中旬の速報値。

資料：総務省「小売物価統計調査報告」

3 野菜の輸入動向

11月の輸入を植物防疫統計で見ると、たまねぎは前年比73%（中国は同81%、アメリカは同53%）の2万4千トン、にんじんは同116%（中国は同114%、オーストラリアは同171%）の5千トン、ねぎは同121%（中国は同120%）の4千トンとなり、たまねぎは前年を大幅に下回り、にんじん及びねぎは前年を大幅に上回った。

野菜の輸入数量の推移

区分	平成22年		平成23年		平成24年1～10月		
	前年比	前年比	前年比	前年同期比	前年同期比		
生鮮野菜	820,687	133	915,091	112	811,272	106	64,301
加工野菜	1,677,840	107	1,803,510	107	1,568,471	106	164,732
野菜合計	2,498,527	114	2,718,600	109	2,379,742	106	229,032
うち中国産野菜合計	1,284,449	117	1,409,984	110	1,208,955	105	124,039
中国産シェア	51		52		51		54

主な野菜の輸入動向

品目	輸入先	平成23年11月(A)		平成24年11月(B)	
		(A)	(B)	(B)/(A)	(B)
たまねぎ	合計	32,663	23,685	73	
	中国	22,292	18,150	81	
	アメリカ	10,371	5,534	53	
にんじん	合計	3,912	4,524	116	
	中国	3,780	4,325	114	
	オーストラリア	96	164	171	
ねぎ	合計	3,465	4,178	121	
	中国	3,463	4,167	120	

資料：農林水産省「植物防疫統計」。平成24年11月は、速報値である。

4 トピック 一 年末の野菜価格について（賢い野菜の購入方法）

今年も残すところ2週間あまりとなり、年末・年始を迎える準備で慌ただしくなってきた。ところで、12月の野菜の価格の動きは、品目によって大きく2つに分かれている。

指定野菜の過去10年間の12月の旬別の卸売価格の平均をみると、年末に向けて価格が高くなっている品目と、ほとんど動きのない品目に分かれていることが分かる。前者は、葉茎菜類ではほうれんそう、ねぎ、レタス及びねぎ、果菜類ではきゅうり及びピーマン、根菜類・いも類では、さといも、にんじん及びだいこんで、後者としては、葉茎菜類ではたまねぎ及びキャベツ、果菜類ではなすびトマト、根菜類・いも類ではばれいしょが挙げられる。

これは、例えば、ほうれんそうは雑煮等の具材として、また、さといも、にんじん及びだいこんはお節料理の具材として広く利用されること等から、年末に需要が増加して価格が上昇しているものと思われる。

以上の傾向は、小売価格にも見られ、指定野菜の過去10年間の12月の旬別の小売価格の平均をみると、卸売価格が高くなる品目は、小売価格も高くなる傾向が伺える。

以上を踏まえて、年末に向けての野菜の購入については、例えば、①さといも、にんじん及びだいこんといった比較的の保存性の高い野菜は、早めに購入すること②ほうれんそうは、特売等の安い時に購入し、下処理等をして冷凍保存すること等を試してみるのもいいのではないかでしょうか。

東京都中央卸売市場における12月の旬別卸売価